

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 13 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2012～2016

課題番号：24320094

研究課題名(和文)外国人児童生徒の複数言語能力の縦断的研究 - 何もなくさない日本語教育を目指して

研究課題名(英文) A Longitudinal Study on Bilingual Proficiency of Foreign-Rooted Pupils: Teaching Japanese without Losing their Mother-Tongue

研究代表者

真嶋 潤子 (MAJIMA, Junko)

大阪大学・言語文化研究科(研究院)・教授

研究者番号：30273733

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,800,000円

研究成果の概要(和文)：大阪府下の公立小学校で日本語を母語としない子ども達の2言語能力とその言語環境について、通算8年以上調査してきた。主たる調査地は、中国語を母語とする児童の多いK小学校と、ベトナムルーツの児童の散在S校で、縦断的に対話型アセスメントを行った。

調査結果から、日本生まれの児童でも、日本語指導が必要であること、話すことより読むことにより多くの支援が必要であることがわかったが、母語中国語の能力が高い方が、日本語の読みの能力が高い傾向が見られた。また母語・母文化への肯定的な学校環境が、児童の情緒の安定や自己肯定感にプラスに働くことも指摘できる。保護者の教育への態度や投資も重要で変化することが示された。

研究成果の概要(英文)：This study is the first empirical longitudinal research in Japan on assessing language proficiencies of JSL as well as the mother tongue/ heritage language among Culturally Linguistically Diverse (CLD) children at public elementary schools in Osaka during the last eight years in total. The research sites were K-elementary school for concentrating pupils from China, and S-elementary school for an only pupil from Viet Nam. CLD children's proficiencies were assessed in the two languages over the years. The results showed the followings among others: even those who were born in Japan still need Japanese language supports; more support is needed for reading than speaking; and those who acquired higher L1-Chinese proficiency tend to show higher Japanese literacy. The fostering atmosphere of L1 and culture at school helps for CLD pupils to have higher self-esteem and stable emotions. Parents' attitude and investment for education also suggested influence on the children's language.

研究分野：日本語教育学

キーワード：複数言語能力 縦断的研究 日本語教育 母語 継承語 外国人児童生徒 「何もなくさない日本語教育」

1. 研究開始当初の背景

日本の言語教育政策における喫緊の課題である「日本語を母語としない児童生徒への言語教育」のあり方を考えるために、平成21-23年度(24年度まで繰越)に行ってきた科研費による研究成果を基に、発展的継続型の研究を行うことにした。外国にルーツを持つ児童生徒(以下CLD児:文化的言語的に多様な背景を持つ児童 Culturally Linguistically Diverse Children)を、「日本語学習者」としての側面からのみ捉え、日本語母語話者児童と比較して不足分を指摘する研究はあっても、日本語と母語を合わせた総体として十全の成育発達ができることを理想とし、持っているものを「何もなくさない」全人的な教育を目指して縦断的に調査したものは、日本ではまだなかった。

2. 研究の目的

日本生まれか幼少期来日の外国にルーツを持つ児童における2言語能力を、母語と日本語の会話力と、教科学習に必要な読書力(リテラシー)の両面から縦断的に調査し、CLD児のバイリンガル教育の基礎資料を提供することを目的としている。またCLD児の全人的な教育を目指して、現場の教員と協力しつつ保護者の参加も促進しながら、教育現場でできることを探ることを目的とした。

CLD児の多い学校での調査を行うと共に、他方で1名しかいない少数点在の場合の支援のあり方についても縦断研究の対象とすることにした。

3. 研究の方法

大阪府下の公立小学校において、(1)中国帰国者の集住地区にあるK小学校の中国ルーツのCLD児(全児童の2~3割)に対して、5年以上にわたり2言語能力を調査した。対話型言語アセスメント(DLA)(文科省2014)とその前身である「会話力テストOBCと読書力アセスメント(DRA)の日本語版と中国語版(本研究で開発)」を使って、教員の協力を得て、CLD児を取り出ししてもらい、1対1でアセスメントを行った。

一方、(2)S小学校という散在のベトナムにルーツを持つ児童に対して、縦断的教育支援と母語指導を行い、「継承ベトナム語カリキュラム」の開発を行った。

また、言語環境を知るために保護者へのアンケート調査とインタビューを行った。

4. 研究成果

(1)2言語能力の調査の対象者は計140名であり、データ数はのべ310件である。うち日本語のアセスメントは174件、中国語のアセスメントは136件、両言語のアセスメントのできたのは81件、さらに縦断的に両言語の調査ができたのは24件である。

小学校の都合を優先したため、時期、学年、言語が揃わないデータが多かった反面、小学

校と研究チームの関係は良好であり、科研期間終了後も2言語リテラシーを伸ばす「多読プログラム」の実施協力を行っている。

(2)5年間の2言語能力のアセスメント結果から、日本生まれ(または幼少期来日)のCLD児については、以下のことが明らかになった。

1 全員が日本語能力を伸ばしているが、日本語の<読み>については、中学年以上になっても個別支援の必要なステージ(3、4)にいたる子どももいることがわかった。

2 母語・継承語である中国語は、喪失/聞くだけ/会話もできる/識字力もありと分かれている。低学年で文レベルまで発話できる児童は高学年でも保持伸長する傾向がみられた。

3 中国語能力が(聞く、話すに加えて)読みまでできると、日本語能力も高いレベルに達する傾向にある。

4 日本語の<読む>より<話す>方が、高いレベル(DLAのステージ評価)に達する傾向が見られた。(先行研究を支持する結果となった。)

5 2言語できることや母語・母文化への肯定的な学校環境があることが、児童の情緒の安定や自己肯定感にプラスに働くことも指摘できる。

6 小1で、2言語ともうまく話せず「ダブル・リミテッド状態」が危惧されたのに、3年生で中国語が伸び、5年生で中国語の読みがほとんど学年相当にまで伸びたケースがあった。(家庭言語は中国語だけで、パソコン、ネットを使って、中国語のドラマやテレビ番組を視聴し、その中で活字(字幕)に触れることを繰り返して読書力を身につけたケースである。)その子は、日本語も学年相当に伸び、アイデンティティも安定している。中国語教育を受けた経験なしに、日中両言語の識字力を自力で獲得したケースである。

(3)調査協力校であるK小学校で、中国語を母語とする教諭が赴任して以来、特に困難のあった1、2年生を対象とした取り出し指導の日本語教室において、母語(中国語)を使った指導を工夫して実践を継続してきた。母語も大切にしながら日本語指導を行うことの意義が確認され、子供達の母語を学ぶことへの動機づけにもなっているなどの結果が示された。また母語教師が赴任して以降、CLD児の保護者が積極的に保護者会に参加するようになった。

(4)保護者へのアンケートとインタビュー調査を複数回行った結果、保護者の属性(学歴等の情報)や日本語能力、子供の教育観、将来の希望など多くの面から、当該小学校に通っているCLD児の家庭言語環境を質的に把握することができた。

(5)散在のベトナム人児童について、4

年間にわたり取り出し継承語の指導を行なった記録と結果を示すことができた。学校の成績が優秀であることに加え、ベトナム語や文化に対して前向きに捉え、誇りを持ってのように成長した。同様のケースに活用できるよう、継承語としてのベトナム語指導のカリキュラムを構築し提案を行なった。

(6) 本研究全体を通して、公立小学校において、CLD 児童の母語を大切に、意図的に母語・継承語を使用することが、可能でありかつ以下のような意義があることをデータで示すことができたと考えている。

意義：

- ・地域の公立小学校で育てる 2 言語の研究であること
- ・2 言語の伸びを時間的経緯の中で捉える縦断的研究であること
- ・継承語プログラムのカリキュラムや指導法についての研究を含んでいること
- ・母語と日本語の発達上の関係について示したこと
- ・母語話者教師の存在意義について示したこと
- ・言語能力測定ツールの開発をしたこと

今後の課題として、2 点挙げておきたい。

- ・[A]家庭のリテラシー活動と、[B]公教育の中での 2 言語の伸ばし方という 2 面の関連について、さらに着目していく必要があること
- ・CLD 児の母語喪失を前提とせず「何もくささない日本語教育」を可能にするために必要な、国・地方自治体・地域・校内の言語政策・施策についての提言

「21 世紀の課題は、どれだけ加算的バイリンガル (additive bilingual) の子どもを育てられるかだ」(Lambert 1977) という指摘を「(カナダの学者が言ったことなので) 日本には関係ない」とせず、「日本語指導が必要な児童生徒への支援」に活用すべき課題として考えていきたい。自分の意思で日本に来たのではない CLD 児童生徒が、日本語習得のみならず、それまでに身につけてきた母語・継承語も蔑ろにせず、日本で生まれ育って良かったと思えるような教育支援ができるはずである。そして本研究では、彼らが将来社会で活躍してくれるよう、必要な教育支援を考え続けるための基礎資料を、多少なりとも提供できたと考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 11 件)

(1) 田慧昕・櫻井千穂 (印刷中) 「日本の公立学校における継承中国語教育」『母語・継承語・バイリンガル教育(MHB)研究』第 13 号 (査読あり)

(2) 中島和子 (印刷中) 「継承語ベースのマルチリテラシー教育-米国・カナダ・EU のこれまでの歩みと日本の現状-」『母語・継承語・バイリンガル教育(MHB)研究』第 13 号(査読あり)

(3) 真嶋潤子・櫻井千穂 2017 「CLD 児の複数言語能力の関係について -大阪府下の公立小学校での調査研究より-」『間谷論集』11 号 日本語日本文化教育研究会 pp.41-56.

(4) 真嶋潤子・カモンティップ・ポンラブット 2015 「タイと日本におけるグローバル化時代の言語教育政策 -多様な言語文化的背景を持つ児童生徒に着目して-」『タイ国日本研究国際シンポジウム 2014 論文報告書』チュラーロンコーン大学 (査読あり)

(5) 真嶋潤子・櫻井千穂・孫成志・于濤 2014 「公立小学校における低学年 CLD 児への言語教育と二言語能力 -中国語母語話者児童への縦断研究より-」『日本語・日本文化研究』第 24 号 大阪大学大学院言語文化研究科 日本語・日本文化専攻 pp.1-23.

(6) 櫻井千穂・中島和子 2014 「多文化言語環境に育つ子ども (CLD 児) の読書力をどう捉え、どう育てるか -対話型読書力評価 (DRA) の開発を通して得た視座を中心に-」『日本語プロフィシエンシー研究』第 2 号 日本語プロフィシエンシー研究会 pp.70-95 (査読あり)

(7) 真嶋潤子・櫻井千穂・孫成志 2013 「日本で育つ CLD 児における二言語とアイデンティティの発達 -中国語母語話者児童 K 児の横断研究より-」『日本語・日本文化研究』第 23 号 大阪大学言語文化研究科日本語・日本文化専攻 pp.16-37

(8) 櫻井千穂・孫成志・真嶋潤子 2012 「ある日本生まれの中国ルーツ児童の二言語能力変化と可能性に関する実態報告」『平成 21 年度・平成 23 年度科研費補助金基盤研究 (C) 研究成果報告書 課題番号 21610010 「日本語母語児童への国語教育と非母語児童への日本語教育を言語環境から再構築する試み」』 pp.56-66

(9) 友沢昭江 2012 「言語環境調査から見えるもの」『平成 21 年度・平成 23 年度科研費補助金基盤研究 (C) 研究成果報告書 課題番号 21610010 「日本語母語児童への国語教育と非母語児童への日本語教育を言語環境から再構築する試み」』 pp.91-119

(10) 中島和子 2012 「定住二世児の継承語と日本語の関係とその評価」『平成 21 年度・平成 23 年度科研費補助金基盤研究 (C) 研究成果報告書 課題番号 21610010 「日本語母語児童への国語教育と非母語児童への日本語教育を言語環境から再構築する試み」』 pp.43-55

(11) 真嶋潤子 2012 「日本の公立小学校に学ぶ中国ルーツの児童の二言語の能力評価 「何もくささない日本語教育」のための基礎研究」『平成 21 年度・平成 23 年度科研費補助金基盤研究 (C) 研究成果報告書 課題番

号 21610010 「日本語母語児童への国語教育と非母語児童への日本語教育を言語環境から再構築する試み」 pp.19-42

〔学会発表〕(計38件)

- (1) 伊東祐郎・小林幸江・菅長理恵・櫻井千穂 2016 招待講演「日本語能力測定方法の演習」文部科学省委託研修『平成28年度外国人児童生徒等に対する日本語指導・指導者養成研修』つくば教員研修センター(茨城県・つくば市)
- (2) 真嶋潤子 2016「外国につながる児童生徒の心の安定と教育」大阪府教育委員会事務局教育振興室主催 平成28年度教育サポーター育成研修 12月8日, 大阪府教育センター(講演)(大阪府・大阪市)
- (3) 中島和子 2016(基調講演)「これまでの継承語教育と今後の課題」母語・継承語・バイリンガル教育(MHB)研究会 2016年度研究大会 8月8日 お茶の水女子大学予稿集 pp.11-14 (東京都・文京区)
- (4) 真嶋潤子・櫻井千穂 2016「公立小学校で学ぶ CLD 児の2言語リテラシーの縦断研究 -音読行動から見た発達を中心に-」『子どもの日本語教育研究会第1回年次大会』3月26日, 東京女子大学(ポスター発表)(査読あり)(東京都・杉並区)
- (5) 友沢昭江 2015 招待講演「外国にルーツをもつ児童・生徒・学生の教育のあり方 日本語、母語(継承語)、学力の面から考える」2015年度日本語教育学会研究集会第7回四国地区、10月24日、香川大学(香川県・高松市)
- (6) 櫻井千穂 2015「評価の目安となる DLA の対話事例に関する調査報告」パネル: 小林幸江・菅長理恵・櫻井千穂・永田耕平・伊東祐郎(2015)「特別の教育課程野中での DLA の生かし方」2015年度日本語教育学会秋季大会予稿集, pp.49-60 沖縄国際大学, 10月11日(査読あり)(沖縄県・宜野湾市)
- (7) 真嶋潤子・櫻井千穂 2015「公立小学校で学ぶ CLD 児の二言語能力の発達 -「対話型アセスメント」を利用した5年間の調査報告-」2015年度日本語教育学会秋季大会『2015年度日本語教育学会秋季大会予稿集』pp.194-199, 10月11日 沖縄国際大学(査読あり)(沖縄県・宜野湾市)
- (8) 真嶋潤子 2015「文化的・言語的に多様な子どもたち(CLD 児)の二言語リテラシーの発達要因 -大阪の小学校における事例研究より-」『ホーチミン市日本語教育国際シンポジウム』9月19日 ホーチミン市師範大学、ホーチミン市(ベトナム)
- (9) 櫻井千穂 2015「外国人児童生徒のための JSL 対話型アセスメント(DLA)」EJHIB2015 国際語としての日本語に関する国際シンポジウム ブラジルサンパウロ大学, 8月9-13日 サンパウロ(ブラジル)
- (10) 中島和子 2015(招待講演)「幼児期からのバイリンガル教育に学ぶ「未来を担う国

際人」の育成」NPO 邦人外国人子ども教育支援協会(TOMO2)主催 7月27日 静岡県浜松市男女共同参画・文化芸術活動推進センター(静岡県・浜松市)

- (11) 中島和子 2015(招待講演)「多文化環境で育てる子どもの心とことば-カナダの経験を踏まえて-」愛知県名古屋市垂文化共生保育研修会 7月24日 中区役所ホール(愛知県・名古屋市)
- (12) 真嶋潤子 2015「国内の外国にルーツのある児童生徒への言語教育」関西学院大学言語コミュニケーション文化研究科オムニバス公開講座「多言語主義・多文化共生」第3回, 4月24日 関西学院大学大阪梅田キャンパス(大阪府・大阪市)
- (13) 近藤美佳 2015「大阪に暮らすベトナム人の子どもたちへの母語支援活動をふりかえる」平成26年度国際交流人材養成講座 地域社会と生活者としての外国人 4月9日 大阪国際交流センター(大阪府・大阪市)
- (14) 真嶋潤子 2015「日本の外国人児童生徒の日本語学習支援の施策と課題」台湾日語教育学会 J-GAP TAIWAN 第29回月例会 話題提供, 1月25日, 静宜大学 台中市(台湾)
- (15) 真嶋潤子 2014「外国につながる児童生徒の心の安定と教育」大阪府教育委員会事務局教育振興室 平成26年度教育サポーター育成研修会講演 12月18日 大阪府教育センター(大阪府・大阪市)
- (16) 中島和子 2014(招待講演)「継承語日本語教育の留意点」Waterloo-London 地域日本語教師会主催, 2014年11月16日, Renison University College, University of Waterloo, Ontario, Canada. 11月16日 オンタリオ州ウォータールー大学レニソン校 ウォータールー(カナダ)
- (17) 中島和子 2014「グローバル人材育成とバイリンガル教育-これからの補習授業校のあり方-」デトロイト補習授業校研究集会(招待講演) 10月4日 デトロイト補習授業校 デトロイト(米国)
- (18) 真嶋潤子 2014 基調講演「グローバル化時代の日本語教育 -社会的マイノリティーへの配慮-」2014年度日本語教育学会第6回研究集会関西地区(大阪府・大阪市)
- (19) 真嶋潤子 2014「タイと日本におけるグローバル化時代の言語教育政策 -多様な言語文化的背景を持つ児童生徒に着目して-」タイ国日本研究国際シンポジウム 8月26日 チュラーロンコーン大学文学部、バンコク(タイ国)
- (20) 中島和子・中野友子・福川美沙・佐野愛子・生田裕子 2014「小・中学生の日英バイリンガル作文における PREWRITING の実態 -継承語教育の立場から-」母語・継承語・バイリンガル教育(MHB)研究会 8月7日 国際基督教大学(東京都・三鷹市)
- (21) 近藤美佳・清水政明 2014「ベトナム語版会話力・読書力評価ツール開発のための基礎的研究」日本語教育国際研究大会

ICJLE2014 7月11日 シドニー工科大学 (シドニー、オーストラリア)

(22) 中島和子 2014「DLA:外国人児童生徒のための対話型アセスメント-JSL 評価参照枠の利点と課題-」日本語教育国際研究大会 ICJLE2014 7月11日シドニー工科大学 シドニー(オーストラリア)(査読あり)

(23) 真嶋潤子・友沢昭江・于濤・永田由貴・平野将洋 2014「日本の多文化多言語環境で育つ児童への二言語教育の可能性 -大阪府下の公立小学校2校の試み」日本語教育国際研究大会 ICJLE2014 7月11日 シドニー工科大学 シドニー(オーストラリア)(査読あり)

(24) 真嶋潤子 2014「日本の多文化多言語環境で育つ児童への二言語教育の可能性 -大阪府下の公立小学校2校の試み-」日本語教育国際研究大会 ICJLE2014, 7月11日シドニー工科大学 シドニー(オーストラリア)

(25) 真嶋潤子 2014「子どものことばを伸ばすために -母語と日本語の教育について-」日本語サポートひまわり会主催「母語保持教育講演会」7月6日 大阪市市民交流センターひらの (大阪府・大阪市)

(26) 小林幸江・伊東祐郎・菅長理恵・櫻井千穂・中島和子 2014「外国人児童のためのJSL対話型アセスメントDLAの活用」2014年度日本語教育学会春季大会 6月1日創価大学(査読あり)(東京都・八王子市)

(27) Kazuko Nakajima, Junko Majima, Daisuke Onuki, Lilian Hatano, Atsuko Koishi. 2014. Educating Minority Language Children in Japan: Dr. Jim Cummins' Contributions in Theory and Practice. Paper presented at the Conference: "Celebrating Linguistic Diversity 2014 Honouring the Contributions of Jim Cummins." April 30, OISE/University of Toronto. トロント(カナダ)

(28) 真嶋潤子 2014「日本の公立小学校で学ぶCLD児の二言語リテラシーの発達-中国語母語話者児童の縦断研究より-」研究フォーラム(2つの科研代表:齋藤ひろみ・池上摩希子) 3月30日 早稲田大学(東京都・新宿区)

(29) 櫻井千穂 2014「多文化多言語環境に育つ子ども(CLD児)の母語力・日本語力の育成」 「多言語対話型評価法」テスター・指導者養成-DLAワークショップ 3月28日 大阪府教育センター(大阪府・大阪市)

(30) 櫻井千穂 2014「多文化多言語環境に育つ子ども(CLD児)の母語力・日本語力の育成『多言語対話型評価法』テスター・指導者養成ワークショップ」 「多言語対話型評価法」テスター・指導者養成ワークショップ 3月24日~3月26日 広島大学(広島県・東広島市)

(31) 近藤美佳 2014「ベトナム人散在校に

おけるベトナム語指導実践報告」大阪大学大学院言語文化研究科院生・外国語学部学生による~学生たちが見た“生きた”学び~ベトナムの文化を知ろう!3月19日かがやき(八尾市生涯学習センター)(大阪府・八尾市)

(32) 中島和子 2014(基調講演)「FIRST THINGS FIRST: 母語・継承語の重要性の再確認」東京学芸大学国際教育センター 第8回国際教育センターフォーラム 3月7日中野サンプラザ (東京都・中野区)

(33) 真嶋潤子・友沢昭江・櫻井千穂 2014「文化的言語的に多様な子どもたち(CLD児)のことばの力の育て方、捉え方」ラウンドテーブル「文化的言語的に多様な子どもたち(CLD児)のことばの力の育て方、捉え方」3月2日 ひのきインターナショナル、ミシガン州リヴォーニア(米国)

(34) 真嶋潤子 2014「日本で育つCLD児の二言語能力とアイデンティティ-何もなくさない日本語教育を目指して-」東京学芸大学第5回多文化共生フォーラム 1月25日 東京学芸大学 (招待講演)(東京都・小金井市)

(35) 櫻井千穂 2013 「日本生まれのCLD児(中国ルーツ)の日本語読解力の実態」第24回第二言語習得研究会全国大会 12月14日 広島大学(広島県・東広島市)

(36) 近藤美佳・清水政明 2013 「在日ベトナム人子弟のための音声認識を利用した正書法指導法開発の試み」2013年度母語・継承語・バイリンガル教育(MHB)研究会10周年記念大会 8月16日 大阪大学箕面キャンパス(大阪府・箕面市)

(37) 中島和子 2013(招聘講演)「多言語環境に育つ児童生徒の2言語関係と継承語教育への意義」第37回NINJAL(国語研)コロキウム 7月23日 国立国語研究所(東京都・立川市)

(38) 中島和子 2012(基調講演)「マイノリティ語児童生徒とイメージ教育」金沢大学こどもの心の発達センター主催 国際シンポジウム『多言語環境児童の学習言語の発達と障害-イメージ教育から見えてくること-』 11月27日 共立女子大学予稿集 pp. 1-7 (東京都・千代田区)

〔図書〕(計7件)

(1) 中島和子 2016『完全改訂版 バイリンガル教育の方法-12歳までに親と教師にできること』(アルク選書)アルク出版 272pp.

(2) NAKAJIMA, Kazuko 2016 "Cross-Lingual Transfer from L1 to L2 among School-age Children." Mouton Handbooks of Japanese Language and Linguistics: Applied Linguistics. De Gruyter Mouton, pp.97-125.

(3) 櫻井千穂 2015「教育相談に対応する専門機関と専門家」杉澤経子・関聡介・阿部裕監修『これだけは知っておきたい!外国人相

談の基礎知識』松柏社 pp.70-78

(4) TOMOZAWA, Akie & MAJIMA, Junko. 2015 'Bilingual Education in Japan' in W.E. Wright, S. Boun, & O. Garcia (Eds.) "The Handbook of Bilingual and Multilingual Education" Blackwell Handbooks in Linguistics. Wiley Blackwell. pp.493-503.

(5) 真嶋潤子 2015「学習者の個人差」『日本語学 入門：第二言語習得研究』 2015年11月臨時増刊号 明治書院 pp.124-136

(6) 櫻井千穂・孫成志・真嶋潤子 2012「日本生まれの中国ルーツの児童に対する二つの言語能力評価と二言語教育の重要性 -児童Kの二言語能力の変化に着目して-」修剛、李運博編著『新時代的世界日語教育研究』(Research on the International Japanese Education of the Modern Days) 高等教育出版社(北京、中華人民共和国)

(7) 友沢昭江 2012「家庭言語環境からみる中国ルーツの子どもの二言語能力」修剛、李運博編著『新時代的世界日語教育研究』(Research on the International Japanese Education of the Modern Days)、pp.181-187、高等教育出版社(北京、中華人民共和国)

〔その他〕

ホームページ等

真嶋潤子のホームページ

<http://majimajunko.sakura.ne.jp/bukosite/fragestellung/pg68.html>

6. 研究組織

(1)研究代表者

真嶋 潤子 (MAJIMA, Junko)

大阪大学・大学院言語文化研究科・教授

研究者番号：30273733

(2)研究分担者

友沢 昭江 (TOMOZAWA, Akie)

桃山学院大学・国際教養学部・教授

研究者番号：10149643

清水 政明 (SHIMIZU, Masaaki)

大阪大学・大学院言語文化研究科・准教授

研究者番号：10314262

櫻井 千穂 (SAKURAI, Chiho)

同志社大学・日本語日本文化教育センター

・准教授

研究者番号：40723250

(3)連携研究者

中島 和子 (NAKAJIMA, Kazuko)

トロント大学・名誉教授

研究者番号：70351161

(2013年からは研究協力者)

(4)研究協力者

于 濤 (YU, Tao)

近藤 美佳 (KONDO, Mika)

安野 勝美 (ANNO, Katsumi)

森迫 龍一 (MORISAKO, Ryuichi)

森迫 貴子 (MORISAKO, Takako)

野口 裕之 (NOGUCHI, Hiroyuki)

孫 成志 (SON, Seishi)

烏日嘎 (Wuriga)

舒菲亚 (Jo Hia)

阪上 彩子 (SAKAUE, Ayako)

荒島 和子 (ARASHIMA, Kazuko)

上出 仁美 (KAMIDE, Hitomi)

朴 錦花 (BOKU, Kinka)